

利用者様を元気にしたい

社会福祉法人 サン・ビジョン（愛知県）

住所 (法人本部) 愛知県春日井市桃山町字北山 5079-1

TEL (法人本部) 0568-89-2301

URL <http://www.sun-vision.or.jp>

経営理念

<法人の理念>

- 地域とともに少子高齢社会を考え、安心して未来ある街づくりに貢献します。
 - 子どもの無限の可能性を引き出し個々のもつ力をはぐくみ、地域で育てる環境をつくります。
 - 子どもの優しい心、豊かな心、強い心を育てます。
 - 高齢者がもてる力を発揮して、自信と幸福を感じられる生活を支援します。
 - 高齢者の尊厳と自己決定を尊重し、一人一人のライフスタイルを支援します。
 - 職員がプロフェッショナルとして喜びと誇りをもち、自ら改革する力をもてるよう育成します。
 - 法律その他基準に従って、常に組織・運営を見直します。
 - 地域社会の変化と改革の先駆者となります。
 - 社会福祉制度のセーフティネットとしての役割を果たします。
- <ミッション> 「少子高齢社会をトータルサポートする」

事業内容及び定員

特別養護老人ホーム（20名）1か所、（29名）1か所、（30名）3か所、（90名）1か所、（100名）3か所、（140名）1か所
介護老人保健施設（80名）1か所、（90名）1か所、（サテライト型20名）1か所
ケアハウス（50名）1か所、（60名）1か所
認知症グループホーム（9名）5か所、（18名）4か所
高齢者向け優良賃貸住宅（51戸）1か所
有料老人ホーム（住宅型20戸）2か所、（住宅型24戸）1か所、（介護付24名）1か所、（介護付36名）1か所
生活支援ハウス（10名）1か所、（15名）1か所
小規模多機能型居宅介護（29名）3か所
ショートステイ（10名）5ヶ所、（12名）1ヶ所、（16名）1か所、（18名）1か所、（20名）1か所
デイサービス（10名）3か所、（12名）1か所、（15名）2か所、（20名）1か所、（30名）1か所、（35名）2か所、（40名）1か所、（47名）1か所、（52名）1か所
大型デイケア（150名）1か所、デイケア（60名）1か所
訪問リハビリ 1か所、訪問介護 1か所、居宅介護支援センター 7か所、在宅介護支援センター 1か所、地域包括支援センター 2か所、福祉用具レンタル 1か所、一般賃貸住宅（10戸）1か所
認可保育園（60名）1か所
多世代交流による地域活性化の事業 1か所、農業事業（地域貢献事業）1か所

収 入 (法人全体) 平成26年度決算	① 社会福祉事業	6,207,921,576 円
	② 公益事業	1,214,645,723 円
	③ 収益事業	13,570,463 円
	合計	7,436,137,762 円

職 員 数
(法人全体) 1,134 名 (非常勤含む)

- 当 面 する
経 営 課 題
- 1 介護サービスの質の向上
 - 2 保育・子育て支援サービスの向上
 - 3 社会貢献事業の推進
 - 4 経営意識の徹底
 - 5 労務管理・職員教育の徹底

取り組みに
着手した
理由、背景

近隣にデイサービスが増えてきており、その中で「選ばれるデイサービス」を目指すため、職員間で話し合った結果、デイサービスの使命は「利用者様を元気にする事」であり、そのための仕組みが足りないと考え、テーマを「利用者様を元気にする仕組み作り」としました。

取り組みの
現 時 点
で の 効 果

利用者様の活動量を把握することで、活動量の少ない時間帯が分かり、その時間帯を中心にアクティビティを用意した事で活動量が増加し、「元気に帰宅する」事が出来る様になりました。当初は体を動かせば活動量が上がり、利用者様が元気になると考えていましたが、取り組みを続けるうち、利用者様自身が「やりたい」と感じ、自分から動いてこそ、初めて元気になることができました。デイサービスでの活動を通して自宅でも継続される方もみえます。今後の課題としては、アクティビティのマンネリ化を防ぎ、継続して新しいアクティビティを導入する必要性が上げられます。

目的：近隣にデイサービスが増えてきている。その中で「選ばれるデイサービス」を目指すため、職員間で話し合った結果、デイサービスの使命は「利用者様を元気にする事」であり、そのための仕組みが足りないと考えテーマを「利用者様を元気にする仕組み作り」とした。

対象：利用者様 130 名 職員(正職員 14 名 契約・パート 6 名)

方法：利用者様の活動量・活動時間の把握

利用者様の活動量の妨げになっている要因を解析

アクティビティの充実・利用者様の過ごし方の選択結果：活動量の把握のため時間を決め、その時間中に何人の人が活動しているかを数え、体を動かしてなくても、脳トレや塗り絵でも「活動」と考えカウントした。曜日によって利用人数に差があるため、その日の利用人数を 100%として活動している人の割合を出している。その中から活動量の少ない「12 時 30 分から 13 時」「15 時 30 分から 16 時」の利用者様の自由時間の充実を図ることとした。

利用者さまの活動を妨げている要因を、利用者様、職員、環境の三点から洗い出し、「利用者様」の面ではデイサービスを学校のように考えているかたが多く職員から「さあ今から～をやりましょう」と指示されるのを待っていて、それ以外のことはしてはいけないと思いついてみえる。

職員の面からは「～をしてください」と利用者様に活動を促すことは出来るが、どうしたら利用者さまの意欲を引き出せるかがわからない。

環境の面では、今以上の活動をするにはスペースが狭い、が主な要因として上げられた。利用者様側の「職員が指示したこと以外はやってはいけないと思っている」に対しては、活動項目を増やすことで「自由に自分の好きなことを選択してよい」という仕組みを作ることにした。

職員側の、「利用者様の意欲の引き出し方がわからない」という要因に対しては外部研修に行き「意欲を引き出すためには感情を揺さぶることが必要である」ことなどを学び、導入した。

環境面の「今以上の活動をするにはスペースが狭い」という要因に対して、いままでは徘徊などのリスクを恐れデイルームのみで活動を行っていたが、リスク管理をしながらもデイルームの外へ活動の場を広げた。そうすることにより、利用者様の生活に大きな変化が見られた。朝デイサービスに到着するとスケジュールボードの前が人だかりになり、利用者様同士「あんた、今日は何やるの?」「わたしはリハビリやろうかな」「じゃあ私は頭の体操やろうかな」と予定を決めている。お風呂上りには他の利用者様にもドライヤーをかけてくださる方もみえた。昼食の後には使った湯のみを洗ってくださる方や、ヤクルトの空容器を集めることをご自分の仕事の様子に行ってください方もみえる。アクティビティの時間も選択肢が増えたことにより、グレイスを賭けて囲碁や将棋の勝負に白熱する男性陣も増えている。趣味の編み物をされる方など、過ごし方は十人十色。皆、思い思いの時間を活動的に過ごされるようになっている。

考察：利用者様の活動量を把握することで、活動量の少ない時間帯が分かり、その時間帯を中心にアクティビティを用意した事で活動量が増加し、「元気に帰宅する」事が出来る様になった。デイサービスでの活動を通して自宅でも継続される方もみえた。今後の課題としては、アクティビティのマナー化を防ぎ、継続して新しいアクティビティを導入する必要性が上げられる。

まとめ：当初は体を動かせば活動量上がり、利用者さまが元気になると考えていたが、取り組みを続けるうち、利用者様自身が「やりたい」と感じ、自分から動いてこそ、初めて元気になることがわかった。今後も常に利用者様の感情を揺さぶり、意欲に働きかけ、そこから元気になるデイサービス作りを心がけたい。